

2024（令和6）年度  
教職課程  
自己点検・評価報告書

長崎女子短期大学  
幼児教育学科

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	
	基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	
	基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	
	基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	9
	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	
	基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携	
III	総合評価	
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	13

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名:長崎女子短期大学幼児教育学科
- (2) 所在地:長崎県長崎市弥生町 19-1
- (3) 学生数及び教員数 (令和 6 年 5 月 1 日現在)
  - ①学生数: 教職課程履修 139 名/学科全体 139 名
  - ②教員数: 教職課程科目担当 (教職・教科とも) 10 名/学科全体 12 名

### 2 特色

長崎女子短期大学は、明治 29 年 (1896 年) に笠原田鶴子が創立した長崎女子学院を始まりとする。昭和 26 年 (1951 年) に学校法人鶴鳴学園に組織変更、昭和 41 年 (1966 年) に鶴鳴女子短期大学が設立、家政科が開設された。昭和 44 年 (1969 年)、長崎女子短期大学に改称され、昭和 48 年 (1973 年) に幼児教育学科が増設されて現在に至る。

本学園の建学の精神「鶴九臯に鳴きて声天に聞こゆ」は、中国の古典「詩経」の小雅・鶴鳴篇の中の一節で、「鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達する」という意味である。社会の中で人に知られなくても、地味だが現実に根ざして誠実に生き、学び続けている人は、必ず人々から高く評価されるようになるということを、本学ホームページに掲載することで、本学園の建学の精神に対する理解が本学生のみならず広く社会に深まるように努めている。

幼児教育学科では、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得でき、50 年間余り、保育者の養成に携わってきている。長崎市内にあって、市内から通学する学生が多いが、近隣の諫早市や大村市から通学する学生もおり、また、学生寮を併設しているため、遠方の島原市、佐世保市、松浦市、島嶼地域の五島市、壱岐市からも進学してきている。保育・幼児教育に携わる保育者養成校として期待される中、卒業生のほとんどが長崎県南部および中部の保育施設に就職しており、概ね高い評価を得ている。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

[現状説明]

本学は、建学の精神に基づく教育目標（学訓）として「尽心・創造・実践」を掲げて、昨年（令和5年）度に定めた全学「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」（以下 DP と略記）10 項目について、本年度から、その一部の名称及び内容を改めた。全学 DP の変更に従い、幼児教育学科の DP も以下のように改めた（資料 1-1-1）。

##### ①学習意欲

勤勉さと真面目さがあり、目標に向けて粘り強く学ぼうとする意志を有している。

##### ②規律性

善悪や道理の基準となる考え方が明確で、良心と社会の規範やルールに従い、状況に応じて自らを律することができる。

##### ③知識

社会人として必要とされる基礎的・専門的な知識を身につけている。

##### ④技能

社会人として必要とされる基礎的・専門的な技能を身につけている。

##### ⑤情報活用能力

多様な情報を適切に収集・分析・判断し、情報及び情報機器を効果的に活用することができる。

##### ⑥課題解決力

論理的思考と想像力により、課題の発見と解決に取り組み、新しくより良いものを生み出すことができる。

##### ⑦言語活用能力

言葉の基本的な知識と文章構成力を身につけ、日常生活の中で状況に応じて適切に活用できる。

##### ⑧コミュニケーション力

自分の意思や感情を的確に伝えるとともに、相手の考えや気持ちを理解することができる。

##### ⑨主体性

自分の意志や判断に基づき、方針や計画を立てて行動し、結果に対して責任を負うことができる。

##### ⑩協働性-

共通の目標達成のため、他の人と協力して課題に取り組み、自他の能力を引き出すこ

とができる。

学科 DP は、カレッジライフに掲載し、入学後のオリエンテーションで学生へ説明して、学生へ周知するようにしている。2年間の学びについて、理論及び演習の各科目をできるだけ順序よく配置し、その流れをカリキュラム・フローチャートとして図示している（資料 1-1-2）。昨年（令和 5 年）度から、成績評価にルーブリックを取り入れたことで、学生は授業に取り組みやすくなっている（資料 1-1-3）。卒業時には、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方が無理なく取得できるように、カリキュラムを計画している。

#### 〔長所・特色〕

各授業では、それぞれの内容を精選することによって、学生のゆとりある学修の時間を創出している。本学キャンパスに隣接する附属幼稚園での体験学習は、学外での教育（保育）実習の前段階として位置付けており、実際の子どもたちの姿を観察し、子どもたちとの触れ合いを通して、各授業での保育の学びを確認し充実させることができる（資料 1-1-4）。ピアノの未経験者や初心者に対しては、1 年生対象の「保育と音楽表現 [初心者クラス]」を開講している。受講は任意であり、一定の成果を上げている（資料 1-1-5）。

#### 〔取り組み上の課題〕

教職課程の目的・目標は、附属幼稚園での「体験学習」等も教職課程専任教員 9 名全員で取り組んでいるので、教職課程専任教員でほぼ共有されており、関係職員を含めておおむね共有されていると考えられる。課題としては、DP に基づく各授業における成績評価の在り方を検討し共有していく必要がある。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 p. 107
- ・資料 1-1-2：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 p. 39
- ・資料 1-1-3：長崎女子短期大学幼児教育学科専門教育科目シラバス
- ・資料 1-1-4：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2023 p. 32
- ・資料 1-1-5：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2023 p. 33

### 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

#### 〔現状説明〕

本学では、幼児教育学科だけが教職課程を有しており、学科専任教員 11 名中 9 名が教職課程の授業科目を担当している。教職課程担当教員 3 名と事務局職員 2 名で構成する教職課程委員会を設置して、教職課程教育を検討し、随時見直しを行っている。教職課程担当教

員による検討案を学科会議で確認した後、教職課程委員会に諮り、教務委員会を経て運営委員会で決定する。このような手順で、教職課程教育全体の見直しと充実を進めている。

教育実習に関する学生指導は、実習の事前指導・事後指導を含めて、教職課程担当専任教員8名が分担して巡回指導を行っている。実習先から要望・助言等があった場合、教職課程担当専任教員間で情報の共有を図り、実習の改善を進めている。また、保育施設長を招聘した講演会を1年次から聴講させることによって、教育実習に対する学生の意識づけを早い段階から図っている。

学生生活の支援には、少人数編成の担任制度であるチューター制度を設けている(資料1-2-1)。学修上の問題がある学生、家庭環境に悩みを抱えている学生、合理的配慮を必要としている学生等に対して、定例のチューター面談だけでなく、必要に応じて、チューターだけでなく学科の他の教員も面談に加わるようにしており、事務局職員も含めて、協議しながら支援している。

#### [長所・特色]

教職課程担当の専任教員が9名という少人数の組織であるため、負担がどうしても大きくなってしまいが、専任教員間で意志の疎通を図るとい点では、比較的図りやすいと考えられる。

本学幼児教育学科では1年次に「体験学習」を本学キャンパスに隣接した附属幼稚園で実施しており、学科の特色ともなっているが、附属幼稚園と協議を進めた結果、本年度から、「体験学習」とは別に、一定のルールの下、1年次から希望者に9時～10時の間、附属幼稚園で自由に園児たちと触れ合える機会を提供している。

本学は個別のピアノ練習室を40室以上設けており、授業外で学生が自由にピアノを練習できるように配慮している(資料1-2-2)。体育館には小規模の室内運動に使えるフィットネス・ルームがあり、運動遊びの実践授業に活用している。図書館は、保育・幼児教育の専門書を始め、図鑑や絵本・大型絵本や紙芝居、視聴覚教材などを多数所蔵しており、絵本の読み聞かせ等の模擬活動が可能な個室も設けている。

#### [取り組み上の課題]

学生が自発的に保育実践を試みることができるような模擬保育室、あるいは、学生が保育教材等を閲覧・使用できるような教職課程専用の資料室がない。新たに施設を設けることは、小規模短期大学であるため大変難しいが、できるかぎり改善していきたい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：長崎女子短期大学カレッジライフ2024 p.61
- ・資料1-2-2：長崎女子短期大学カレッジガイド(大学案内)2023 p.22

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### [現状説明]

本学幼児教育学科における入学者受け入れの方針は、アドミッション・ポリシーとして本学公式ウェブサイトや学生募集要項、カレッジガイド、カレッジライフに明示しており、各選抜方法に基づいて入学者選考を行っている（資料 2-1-1～4）。以下に示す。

- ①保育者として誠実な人柄と人間力を身に付けるために、子どもや保護者を思いやる心を持ち、協働に向けた努力を惜しまない者
- ②保育者としての高度な専門性と創造力を身に付けるための基礎学力と素養があり、保育について学ぶ姿勢を持ち続けることができる者
- ③保育者として地域社会に貢献する実践力を身に付ける努力を惜しまない者

学生募集に向けてオープンキャンパス等で配布する本学カレッジガイドには、幼児教育学科の魅力として「保育士資格と幼稚園教諭免許だけでなく、社会人としての『生きる力』が身につく」ことを示している。保育実践力の育成として「隣接した附属幼稚園での体験学習」「保育者として必要な基礎技術の修得」「充実したピアノサポート」「4名の実務家教員による実践的指導」を挙げて、具体的にわかりやすく説明している。また、社会人基礎力の育成については「スキルアップオプション」として「コミュニケーション力アップ」「問題解決力・自己管理力の向上」「徹底したマナー指導」を挙げて、具体的な学びの内容を示している（資料 2-1-5）。

入学後は、まず入学直後に学外実習についての総合オリエンテーションを行い、学内で学んでいく知識や技術を保育現場で体験・実践することの意義を説明している。さらに、実習に臨む前には「全体事前指導」と「個別事前指導」を行い、実習を終えた後には「個別事後指導」を行うことで、保育者としての実践力を身に付けられるように、きめ細かい指導を行っている。

#### [長所・特色]

本学幼児教育学科の特色としては、附属幼稚園が本学キャンパスに隣接していることで、1年次での「体験学習」を容易に実現できることが挙げられる。さらに、個別のピアノ練習室が40室以上設置されているので、授業外でも学生が自由にピアノを練習することができる。これらの特色を学生募集にあたっても強調している。

#### [取り組み上の課題]

学生の確保については、全国的に見て長崎県外への人口流出が大きく、高校生人口の減少も大きいので、定員充足が厳しくなっている。本年度入学者は学生定員の3割程度下

回った。今後の学生募集について、本学幼児教育学科の魅力だけでなく、保育職そのものの魅力についても、高校生及びその保護者へどのようにアピールしていくかが重要である。

また、保育職を目指して入学したものの、実習を体験した結果、保育職を諦める学生が1、2名いる。そのような学生を早めに把握して、本人の意志を尊重しつつも、保育職を諦めないように学修支援していくことが大切である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：長崎女子短期大学公式ウェブサイト
- ・資料 2-1-2：令和6年度募集要項 p. 1
- ・資料 2-1-3：長崎女子短期大学カレッジガイド 2023（大学案内） p. 37
- ・資料 2-1-4：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 p. 107
- ・資料 2-1-5：長崎女子短期大学カレッジガイド 2023（大学案内） p. 20

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

幼児教育学科では、保育士資格と教員免許状の両取得を基本方針としており、入学当初は、1年生全員がそれに基づいて受講している。

教職に就こうとする意欲や適性の把握については、1年次4月に大学共通の教養科目「初年次セミナー」で入学の動機等を含めた自己紹介シートを記入させ、さらに、就職活動に関する講義を受けて、自己分析シートの作成や、今後の就職活動への取り組みのレポート作成を通して、学生の就職活動に対する関心・意欲を向上させることに努めている。また1年次4月に、職業適性分析を含む「社会人基礎力テスト」を行って、チューターがそれぞれの学生のテスト結果を把握できるようにしている。学生は、チューター面談時にテスト結果を受け取るので、学生自身が教職への適性の有無を確認することができる。キャリア支援は、学生の希望を最優先にして行っている。

より具体的なキャリア支援は、2年次に進路調査票をキャリア支援センターに提出することから始まる。キャリア支援センターは、各保育施設から届く募集の情報を、随時、学科2年生へ向けてメール送信の形式で通知している。キャリア支援センターは、履歴書や自己PRの書き方の助言指導、あるいは、採用面接試験についての指導、等を個別に積極的に支援している（資料 2-2-1）。

学生には、就職活動の状況や内定決定について、随時、チューター及びキャリア支援センターへその旨報告することを求めている（資料 2-2-2）。2年次後半になると、就職先内定が次第に出てきて、ほとんどの学生が報告してくれるので、就職内定状況はかなりの確度で把握できていると考えている。

令和7（2025）年3月に卒業した学生66名のうち、幼稚園教諭二種免許状の取得者63名及び保育士資格の取得者63名であり、幼稚園への就職者4名（6.3%）、認定こども園への就

職者 25 名 (39.7%)、保育園への就職者 32 名 (50.8%) という結果であった。

#### 〔長所・特色〕

「卒業生による講演会」や「保育施設長による講演会」を開催して、幼稚園や保育園、認定こども園等の現場の話聴き、学生が保育職に対する職業観や就職活動の方法をより明確にできるように努めている(資料 2-2-3)。また、教育実習期間中に実習園へ訪問して巡回指導する際に、適宜、現場で必要とされている保育者像に関する情報収集を行って、学科会議での検討資料としている。

#### 〔取り組み上の課題〕

2 年次後半の早期に就職が内定する学生が出てきて、内定者が増えてくると、就職活動に焦りを感じる学生も出てくる。そうした学生の精神的負担を軽減するためには、きめ細かな対応が求められるが、本年度は教職課程専任教員でチューターを務める教員が 8 名になって昨年度より 1 名減ったので、チューターの負担がより大きくなっている。従来からキャリア支援センターとチューターとの間で、個々の学生の就職活動に関する情報共有を行ってきている。今後もよりいっそうの情報共有を図っていきたい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：長崎女子短期大学カレッジガイド 2023 pp. 40-41
- ・資料 2-2-2：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 pp. 60-61
- ・資料 2-2-3：令和 6 年度長崎女子短期大学幼児教育学科専門教育科目シラバス

## 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状説明〕

長崎女子短期大学の建学の精神は「鶴九阜に鳴きて声天に聞こゆ」にあつて、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を本学の使命とし、本学学則で、「教育基本法並びに学校教育法の趣旨に従い、高等学校の教育の基礎の上に 2 年間の一般教養と実際的な専門教育を授け、建学の精神に基づき、良識と技能を備え、併せて社会や家庭に有為で自立する心を持つ女性の育成を目的とする」としている（資料 3-1-1）。

幼児教育学科では、「建学の精神と教育理念に基づき、豊かな人間性と思いやりの心を持ち、社会の平和と幸福に寄与する自立した保育者の養成」を教育研究上の目的としており、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得が可能である（資料 3-1-2）。

教職課程カリキュラムは、以下の項目をカリキュラム・ポリシーとして編成している（資料 3-1-3）。

- ①教科に関する科目：保育の 5 領域に関する基礎的素養を養う科目
- ②保育職の意義：保育者の在り方・職業倫理を考える力を養う科目
- ③保育の基礎理論：教育・心理・福祉の基礎理論を学ぶとともに、自らの保育観を見つめ直す科目
- ④教育・保育課程及び指導法：子ども理解に基づいた保育計画の立案・実践・自己評価を行う上での基礎力を養う科目
- ⑤学外実習：真摯に子どもと関わる中で、保育者として求められる知識・技能を確認するとともに、多様な保育者との関わりの中で自らの保育観を見つめ直す科目

シラバスでは、教育課程におけるすべての科目で授業の目的、到達目標、内容、授業計画、成績評価方法・基準等を明確に示しており、本学公式ウェブサイトで公開している（資料 3-1-4）。

#### 〔長所・特色〕

幼児教育学科の教職課程では、領域に関する専門的事項である「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に関する授業科目、保育内容の指導法に関する科目である「保育内容総論」、基礎的理解に関する科目である「教育原理（教育史を含む）」「発達心理学」「特別な教育的ニーズの理解とその支援」を卒業必修とすることで、教職課程としての性格を明確にしている。

「表現」領域の科目としては、「子どもと音楽表現」と「子どもと造形表現（基礎）」の 2 つに分けて開講し、さらに「保育と音楽表現」「子どもの歌と伴奏法」や「子どもと造形表現（応用）」「子どもの絵と製作」を開講することで、「表現」領域の知識・技能の教育を充

実させている（資料 3-1-5）。

〔取り組み上の課題〕

領域に関する専門的事項の授業科目の中、「人間関係」を除く「健康」「環境」「言葉」「表現」の 4 領域を 1 年前期に開講し、1 年後期に各領域の指導法の授業を開講している。「人間関係」については、専門的事項の授業「子どもと人間関係」を 1 年後期に、「領域『人間関係』の指導法」を 2 年前期に開講している。しかし、演習主体の各領域の指導法を専門的事項の講義の前に学ぶという、実践から理論へという流れのほうが、学生にとってより理解しやすくなると考えられるので、今後の課題としたい。

領域「人間関係」については、その指導法の授業「領域『人間関係』の指導法」を次年度から 2 年前期から 1 年後期へ移行させる計画である。これによって 5 領域に関する授業をすべて 1 年次に学修し終えるようになるので、2 年次の教育実習をより充実させられると考えられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 p.9, p.103
- ・資料 3-1-2：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 p.9
- ・資料 3-1-3：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 p.107
- ・資料 3-1-4：長崎女子短期大学公式ウェブサイト
- ・資料 3-1-5：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 pp.40-41

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

DP に、「保育者として求められる知識や技能を修得すること」「保育者として、主体的に保育を計画し、自立した保育実践を行うこと」「保育者として、保育職の意義を理解し、地域の子育て支援に貢献すること」等を掲げて、保育実践力を育成するための授業科目を開講し、最後に「保育・教職実践演習」を配置して、卒業時には幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を無理なく取得できるように、カリキュラムを編成している（資料 3-2-1）。

教育実習では、学生全体への事前指導だけでなく、さらに個別に事前指導を行って、できるかぎり安心して実習に臨めるように配慮している。実習期間中は、学科教員が分担して実習園へ訪問して巡回指導を行い、実習中の学生の状況を把握する一方、実習園との意思疎通を図るようにしている。巡回指導後は、指導報告書を作成し、実習終了後には個別に事後指導を行って、教育実習の成果が学生にとってより充実したものになるように努めている（資料 3-2-2）。

一方、複数の学外施設と連携して、有志の 2 年生たちが幼児を対象とした保育活動を行っている。このような地域との連携協力を通して、教職課程で学修した成果を実践すること

により、保育者としての実践力の向上に努めている。

#### 〔長所・特色〕

学生の実践力を育成するために、40 台以上のピアノ個室、自然遊び室、音楽遊び室、図画工作室等を備えており、さらに、隣接する附属幼稚園での「体験学習」を通して、保育実践力をより高められるように工夫している（資料 3-2-3）。さらに本年度から、「体験学習」を発展させられるように、1 年次から希望者に附属幼稚園で自由に園児たちと触れ合える機会を提供している。また、2 年間を通して、「保育施設長による講演会」を複数回開催することによって、幼稚園や保育園、認定こども園等の現場の話を聴き、具体的な保育実践力を知る機会を提供してきている（資料 3-2-2）。

また、図書館等の公共的な学外施設と連携しながら、有志の 2 年生たちが「手遊び」や「絵本の読み聞かせ」等の保育活動を行っており、1 年次から教職課程で学修してきた成果を、実際の幼児を対象として実践することによって、保育実践力の向上を図っている。

#### 〔取り組み上の課題〕

本年度は、附属幼稚園での体験学習をさらに発展させるために、1・2 年の希望者に自由に同園児たちと触れ合える機会を提供し、ある程度活用することができた。今後も、附属幼稚園との連携をより密にして、学生の実践力を高めていきたい。さらに、学外の施設との連携を強化して、教職課程で学修した保育活動の成果を、幼児を対象として実践する機会を多く設けることで、実践力の向上を図りたい。

5 領域の指導法の授業に関して、その中の 4 領域の指導法を免許必修として選択させているが、5 領域すべての指導法を学ぶことが望ましい。そこで来年度から、現行の「指導法（2 単位）」を「指導法Ⅰ（1 単位）」と「指導法Ⅱ（1 単位）」に分割し、「指導法Ⅰ（1 単位）」を免許必修として、1 年次に 5 領域すべての指導法を学び、2 年次の教育実習の充実を図る予定である。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1：長崎女子短期大学カレッジライフ 2024 pp. 40-41, p. 107
- ・資料 3-2-2：令和 6 年度長崎女子短期大学幼児教育学科専門教育科目シラバス
- ・資料 3-2-3：長崎女子短期大学カレッジガイド 2023 pp. 18-23

### Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

「基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、建学の精神を基に定められた学科 DP で教職課程における保育者像が示されており、教職課程に関わる教職員の共通理解が図られていると思われる。教職課程の目的・目標についても、成績評価にルーブリックを取り入れたことで、学科教員及び関係職員におおむね共有されていると考えている。

教育実習に関する学生指導は、教職課程担当教員 8 名が分担して関わり、実習の評価も 8 名全員で行っているため、実習先からの要望・助言等を速やかに実習の改善に反映させられている。学生生活の支援については、少人数の学生を担当するチューター制度によって、ある程度細かい支援ができています。しかし、本年度からチューター担当の専任教員が 8 名に減り、一人あたりの担当学生数が増えたため、きめ細かな対応は少し難しくなっていると感じている。対策を模索中である。

「基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援」においては、本年度は学生定員を 3 割程度下回り、長崎県外への人口流出、高校生自体の人口の減少に加えて、保育職希望の高校生の減少により、定員充足が厳しくなっている。今後の学生募集について、本学科の魅力が高校生及びその保護者へどのようにアピールするかが検討課題である。就職については、ほとんどの学生が幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得して卒業し、例年、95%前後が長崎県内の保育施設へ就職している。求人は常に学生定員以上あるので、保育施設の要望に応える必要性からも、学生定員の充足が最重要課題である。

「基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム」においては、5 領域の専門的事項に関する授業科目、保育内容の指導法に関する授業科目、基礎的理解に関する授業科目を卒業必修とすることによって、教職課程としての学科の性格を明確にしている。特に 5 領域に関する授業科目については、次年度からそのすべてを 1 年次に学修できるように配置し、さらに、5 領域すべての指導法を免許必修科目とすることにしたので、2 年次の教育実習をより充実したものにすると考えられる。また、本年度から附属幼稚園で 1 年次から自由に園児たちと触れ合える機会を設けた。附属幼稚園に限らず、学外施設との連携によって、幼児を対象とした実践の機会を増やし、学生の保育実践力をいっそう高めていきたい。

### Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

報告書の作成及び公表に向けて、以下のように作業を進めた。

令和 7 年 10 月以降、教職課程委員会のワーキンググループで素案作成を進めた。令和 8 年 2 月、教職課程委員会で素案を検討し、必要な修正を行った上で、原案として了承した。同月、報告書案として本学運営委員会に提出し、承認を得た後、教職課程自己点検・評価報告書として本学公式ウェブサイトで公表した。

V 現況基礎データ一覧

令和7年5月1日現在

法人名	学校法人鶴鳴学園				
大学・学部名	長崎女子短期大学				
学科・コース名（必要な場合）	幼児教育学科				
1. 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数	66名				
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	65名				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	63名				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用+臨時的任用の合計数）	幼稚園教諭4名 保育教諭25名				
⑤ ④のうち、正規採用者数	幼稚園教諭4名 保育教諭25名				
⑥ ④のうち、臨時的任用者数	幼稚園教諭0名 保育教諭0名				
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（特別専任教授）
教員数	1名	3名	4名	0名	3名
相談員・支援員など専門職員数 1名					